

平成 28 年度 指定管理者評価表

【別紙5】

施設名： 河内長野市立障がい者福祉センター あかみね

指定管理者名： 社会福祉法人 河内長野市社会福祉協議会

1. 個別評価

評価項目	評価の視点	評価	市評価
サービスの提供	施設の設置目的に沿って平等利用が確保されたか。	A	A
	施設の設置目的に沿ってサービスを提供しているか。	S	S
	利用時間、利用日、利用期間は遵守されているか。	A	A
	利用者に対する情報提供、情報発信は適切か。	A	A
	利用の承認、案内等は適切かつ迅速か、また接遇は適切か。	A	A
	利用者のニーズを把握し、改善、工夫を行っているか。	A	A
	施設の利用率は適正な水準にあるか。	A	A
	苦情等の対応は迅速かつ適切か、また市に迅速に報告しているか。	A	A
	指定管理者が行った自主事業は、市民サービスの向上に役立ったか。	A	A
施設等の維持管理	不具合が生じた場合の市への報告は適切か。	A	A
	建物躯体及び設備機器の点検・保守、安全確認等は適切か。	A	A
	修繕は適切か。	A	A
	備品の管理は適切か。	A	A
	清掃、警備、衛生管理は適切か。	S	S
労務状況	サービス提供及び施設の維持管理のため、計画どおり適正な人員が配置されているか。	A	A
	勤務体制が、勤務者の休暇、休憩等の取得が適正か。	A	A
	必要な専門的資格、技術を有する人材を確保しているか。	A	A
	従業員に対して、計画的、効果的な人材育成を行っているか。	A	A
	労働諸法を遵守しているか。	A	A
危機管理	緊急時に備えた、体制、対応マニュアル、研修・訓練等は適切か、また、防火、防犯体制の整備、研修、訓練等は適切に行われているか。	S	S
	災害、事故、盗難等の発生時に迅速な対応ができる組織体制と連絡体制になっているか。	S	A
	利用者の安全は確保されているか。	A	A
個人情報	個人情報保護のための体制、書類等の整備・保管、問い合わせ等への対応、研修は適切か。	A	A
	個人情報保護及び情報公開に関する関係法令を理解しているか。	A	A
	万が一、個人情報流出した場合の対応が検討されているか。	A	A
財務状況	管理に要する収支は適正に保たれているか。	A	A
	支払いの遅滞は生じていないか。	A	A
	使用料、利用料金収入は計画どおりか。収入の増加が図られているか。	A	A
	現金は適正に取扱われているか。	A	A
	経費は縮減されているか、または、縮減に向けての努力がされているか。	A	A
	業務を外部委託している場合、その業務は施設管理の主要な部分以外であるか、過度に外部委託にシフトしていないか。	A	A
その他	省エネルギー、省資源、環境配慮物品等の購入など環境への配慮はなされているか。	A	A
	良好な関係を保つべき関係団体や地域との連絡調整は適切か。	A	A
	管理に要する法令は適正に遵守されているか。	A	A
	市との定例の連絡調整の機会が確保されているか。	S	A
	事業計画書（申請時）および年間事業計画書どおりに管理がなされているか。	A	A

評価欄の説明

- S：協定等の遵守に加え、仕様書より優れた管理が行われた。
A：協定等を遵守し、仕様書に沿った管理が行われた。
B：協定等を遵守し、概ね仕様書に沿った管理が行われたが、一部に課題がある。
C：一部、協定等が遵守できていない。又は、不測の事態等により仕様書に沿った管理ができなかった。

2. 収支報告

単位:円

		事業計画A	事業実績B	A-B	前年度実績	備考
収入	指定管理料収入	66,399,800	66,399,800	0		
	(市受託金収入)					
	障害福祉サービス等事業収入	29,766,000	29,958,896	(192,896)		
	生活介護授産収入	1,500,000	1,500,680	(680)		
	一時借入金	5,447,200	0	5,447,200		
	収入総額	103,113,000	97,859,376	5,253,624	0	
支出	人件費(職員人件費)	76,840,000	67,294,066	9,545,934		
	事務費支出	21,884,000	19,813,397	2,070,603		
	(業務委託・保守料等)					
	事業費支出	2,802,000	2,622,703	179,297		
	(医師派遣費等)					
	就労支援事業支出	1,500,000	1,338,030	161,970		
	(工賃・材料費等)					
	その他支出	87,000	30,200	56,800		
	(負担金支出)					
	当期繰越金	0	6,760,980	(6,760,980)		
	支出総額	103,113,000	97,859,376	5,253,624	0	0
収支差額		0	0	0	0	0

3. 総合評価

自己評価

○デイサービス事業では、年間に約60のクラブ・教室を開催しており、そうした中、アンケートの実施や利用者の声などを聞くなどして、ニーズの把握や内容の改善に努めました。その障がい者のニーズに基づき、個々の状況に応じた対応や既存するクラブ・教室のさらなる充実をボランティアとともに展開しました。その中で一部のクラブでは当事者自ら、あかみねを貸室にて利用し、その活動を充実しておられ、地域の方々と交流や自立した支援へと展開することができました。また、引き続き感覚統合に失敗している発達障がい児に対して、良好な人間関係をつくり保つための支援を実施しました。内容としては、作業療法士の立場で子供の作業している状態を観察し、身体・感覚・運動に対する支援の提案、人とうまく関わるための理解の促進を図るソーシャルスキルトレーニング(SST)生活技能訓練を行うとともにピアセンターかわちながのとの連携で子育てに難しさを感じている保護者を対象にした、子どもとのかかわり方や楽しく子育てするための工夫・アイディアについて、みんなで一緒に考え、学ぶ講座ペアレントトレーニングも実施し、保護者と協同で支援を行い、グループ活動へ発展させ、生活相談の場となる活動へと発展させることができました。

○ボランティアの発掘・育成に関しては、日頃よりクラブ・教室で活動しているボランティアにボランティアコーディネーターが「あかみね」行事への参加協力を促し、個別およびグループでの支援活動を促しました。

○障がい者福祉関係団体と協賛で第12回さあ、秋だ！「みんなおいでや」を開催し、市民への障がい理解の促進と障がい者の方が地域社会で自由な交流ができるよう事業を展開し、障がい者福祉関係団体が協同で活動できる場を充実させました。

○災害時における防災・避難訓練を実施し、指定福祉避難所としての役割や障がい者や支援者の方々が日頃からの備えや災害に対する認識を高めました。

○生活介護事業では、医療的ケアの必要な重度障がい者や強度行動障がい者への受け入れ体制も行い、生活に必要な支援を行いました。生産活動では働く意欲の醸成を図るとともに、自信を持った利用者は就労支援継続B型事業所へつなげることができました。また、生活面での向上を図るために、短期入所や移動支援などを利用していない利用者とその保護者に対して、福祉サービスの情報提供を行うことでサービスの利用につなげることができました。平成28年度は、新規利用者1名を加え、19名(その内、医療的ケアの利用者が2名)の利用者で運営を行いました。

○施設整備についても、老朽化する施設や設備を計画的に管理を進め、随時修繕箇所を確認・修理し、利用者により良い環境下で安心して利用していただける場を提供しました。

市評価

協定書、仕様書、事業計画書に沿った管理運営を必要に応じて、市と協議を行いながら実施した。

イベントなどの機会をとらえ実施したアンケート調査により、ニーズ把握を行ない事業展開を進めている。その中で既存事業の見直し・拡大、障がい者の自立に向けた取り組みを積極的に行い、だれもが社会参加しやすい人づくりを行った結果、障がい者の自助グループへの発展や新たな事業の創出および総合的な生活支援の拡充へと事業展開することができている。

老朽化した施設を随時協議しながら修繕し、利用者が安心して利用できる施設環境整備に努め、施設を維持することができた。また、コスト削減を意識した職員による清掃や整理整頓を行っている。

総合評価として、適正に事業実施できている。